

#### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

議長に登壇の許可をいただきましたので、ただいまより、4番山口裕子の一般質問をさせていただきます。今回は1番、武雄市民の健康づくりについて。2番、民生委員児童委員の選任について。3番、これからの道路行政について。4番目、地球温暖化対策と循環型社会の推進について質問をしていきたいと思っております。まず今回、1番目の武雄市民の健康づくりについてっていうところですが、私が4番目の子どもをお産してもう20年になるんですが、まあ、自分の自己管理不足、別に病気であったわけではないですが、住民検診も受けたことがなくて、まあ、そろそろ自分の体と向き合わないといけないなということもありまして、55歳ですね、人間ドックというのを初めて受けてみました。それを8月7日に受けました。

あと、8月30日にですね、市政アドバイザーの中川恵一さんの中学生を対象とした「生きるの教室」っていうですね、ちょっとこれ、講演会というよりもワークショップ形式だったんですが、それをみっちり受けさせていただきました。

そこで、やはり命の大切さですね、これは重々、2年前の3月11日の津波とか、原発事故とかのときに、皆さんも感じてらっしゃると思いますが、やはりそれ以来、命の大切さというのを、やはり私たちは考えていかないといけないなということに気づき、まあ、健康面からですね、あげさせていただきました。

そうあげてるときに、9月1日、今月の9月1日がですね、私、山口家の、おばさん。おばさんが去年ですね、94、98と続けて、まあ老衰ですね。元気に旅立たれたんですが、その方の方の下の方の、おばの一周忌が9月1日にありました。そのとき父はですね、8人兄弟の一番下で、山口家をとっているんですが、そのときに、おばとか、やはり元気なときは、お盆、正月と昔の話に花が咲いて、戦争中の話とか、戦死したおじさんがいて、戦死した弟の話、結婚もせずに戦死した弟の話とかですね、そういうのを私も聞かされていたんですが、その9月1日の法事のときに、もうひとつ兄のおじさんからですね、大事な物がでてきたから、我が実家の山口家で預かってくれということで、渡されました。9月1日に。

私はその前に、この一般質問挙げてて、なんかそれを渡されてですね、とてもまた命について、考えないといけないなということ、すごく重みに思ったわけで。それがモニターに入れてればよかったんですが、このおじさんが、戦死したおじさんの、今69年になって、その旅立つ、戦死される前の23歳の姿と、これが（写真、はがきを示す）山口家に届いた、雲南省の何とかっていう——において戦死っていう。本当にこれが実物なんですよ。これが、「山口マサオ、19年9月14日、雲南省何々市において戦死」というのはがきをですね、私たちに守ってくれということで渡されました。

本当に、こう戦争——テレビとかですね、そういう、いろんなので学ばせていただいたんですが、やはり今の時代を思ったときに、この方たち、亡くなった方達の英霊っていうか、その方たちが今、私たちの世の中を見たときに「あー、どう思われるかな」というふう

感じて、もっと自分もここに立たせていただいているから、その命の重みとか、そういう形で、みんなでこういうことを、考えていかないといけないんじゃないかなというふうに思いました。やはり69年経ってですね、これを預かるっていう重み。これをまた、戦争を体験したもの——ないものですね、次にまた伝えていく役割として、命の大切さっていうことを、今回やはり考えていくために、質問するようになってたんだなということを、感じさせていただきました。

本当に、少し平和ぼけしたような感じっていうか、そういう今の時代がですね、本当に、こう食べることに、食べるもの食べられず、着る物もなく、靴1つ履く物もなくですね、このおじさんは戦死っていうよりも、餓死っていうか、もう食べるものがなくて、死んでいったというふうに、弟の話です、おじさんとかおばさんから、聞いているものであります。

まあ、そういうことで、命の大切さっていうことで、武雄市もこう、健康づくりっていう形で中川恵一さんを、5年目になると思います。市政アドバイザーとしてですね、「生きるの教室」をされております。

やはり、いろいろ私も聞き取りです、いろんな取り組みがあるということがわかりましたが、市民の皆さまも、ここまで武雄市がですね、やってるということがわからないと思いますので、武雄市が今、取り組んでる健康づくりについてお尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

山田くらし部長

**○山田くらし部長〔登壇〕**

武雄市が健康づくりについて取り組んでいる、主な事業につきましては、まずがん検診ということで、胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がん、そういうふうながん検診と、あと、がん対策推進事業ということで、先ほど言っていましたけれども、中川先生の講演会とか、シンポジウム、たばこ対策などをやっているところでございます。その他に、住民健診というふうな形で、特定健診、わかもん検診、そのほか簡易ウィルス検診。それと検診をしたあとの特定保健指導、そのほかに健康相談とか、健康教育、家庭訪問等をしてですね、健康づくりに取り組んでいるところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

自分も、まあこういうですね、健康づくりっていう形で、今まで住民健診も受けてなかったんですが、やっぱり自分と向かい合うっていうことが大切だになってということに、気づかせていただきました。

あと中川恵一さんが、子どもたちを相手に、とても愛情を持ってがんの恐ろしさとか、どうしたら、がんと向かい合うことができるか、命の大切さなどをですね、2時間かけてワー

クシヨツプ形式でされました。

ところが、私もそこまで知らなかったんですが、がんはもう、今は2人に1人が、がんにかかるっていう形で、がんで亡くなる人が3人に1人ですね。そういうのが、ちゃんと解明されているわけです。そして、がんの一番の大きな原因は、たばこですね。たばこが30%だそうです。がん——そのたばこ以外の全ての生活習慣が30%。それと、どんな気を付けても防ぐことができない、人間にはどうすることもできないという形で40%の人が、がんにかかるそうなんです。

まあこういうことも、私も初めて受けてわかったんですが、やはり、こういう子どもたちを前にして、先生が一生懸命伝えてらっしゃるときに、大切な人が、まあ2分間だったんですね。自分の大切な人が、がんで亡くなりましたっていう形で、先生が目をつぶって考えてごらんっていうことで、で、目を開けて、「じゃあ皆さん、大事な人が亡くなったとき、どうだったですか」ということで、たばこの害ということで、「お父さんお母さんが、たばこを吸っている方は手を挙げてください」ということだったんですが、先生もほんとびっくりされていたんですが、やっぱり武雄市は全国以上に、こう高くて、ちょっと後ろから見ても80%以上くらいの子どもたちが手を挙げていたんですね。だから先生もびっくりされてたんですが。

だからこそ、先生が一生懸命、きょうは君たちの一番大切な仕事は、家に帰って、お父さんお母さんに、大切な人のために、たばこをやめるってことを言ってくれないかっていうふうに、先生がそのワークショップっていうか、そういう中で言われたんですね。

だからやはり、子どもたちに教育するっていうのも、まあ、きのうから教育問題とかいろいろ出ていますが、やはり大人も、なかなか一生懸命頑張ってる、まあたばこ吸ってる人も、一生懸命、生活習慣も一生懸命変えようとしている人も、たくさん頑張ってるんだけど、やはりそういう視点から考えたら、またこういう健康面っていうか、がんを撲滅するとか、医療費の問題とかを考えていけるんじゃないかっていうふうに思うんですね。中川恵一先生が、「ほんとに君たち、家に帰ってお父さんとお母さんと向き合って、こういうことを真剣に話すんだよ」というふうに、言われてました。

だからやはり、子どもたちの教育も大切ですが、やはり大人も一緒になって考えることじゃないかなっていうふうに、私も気づいたのですが。まあ、このときはですね、大人の保護者の方にも、お誘いをしてあったんですが、平日の午前中っていうことですね、一緒に聞くっていうのが、なかなか難しかったと思います。保護者とか私たち大人が参加している人は、ほんとわずかだったんですね。でも、とてもいい講演会というか、ワークショップを用意してあったということを、まあ市長にもお伝えして、今武雄市がこういう状態であることについて、どういう見解をお持ちかをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

がん検診率——ちょっと谷口議員、ちょっと席を立たないでくれませんか。ちょっと、私答弁していますので、谷口議員さん。

なんでしたっけ。

〔4番「武雄市がそういう教育をしているっていうことと、それについてどう思いますかっていうこと」〕

はい、そうですね。はい。

がん検診率向上課っていうのをたてて、今くらし部でも、一生懸命いま、やってるんですけども。ひとつは、その受診率がなかなか上がらないっていうこと。それと先ほど議員から御指摘を賜りました、たばこですね。これについてもなかなかね、喫煙率が下がらないということで、どうやって下げるようにすればいいか。あるいはいろいろ診断とかね、上げるにはどういうふうにすればいいかっていうことで。

ちょっとこれは、がん検診率向上課と私と中川先生と話したことは、子どもたちにその大切さを訴えようと。まず子どもたちに訴えながら、親御さんであるとか地域の皆さんたちに言ってもらおうと。

これね、お子さんの力をこれで借りるっていうのは、ちょっといかなものかなと思ったんですけど、そこまで事態がやっぱり逼迫しているっていうことと、やっぱり子どもたちにも自分たちの体のことも含めて、考えて欲しいということを考えて、今回の運びになったんですね。

やはり、そのときに私も幾人か聞いたんですけど、「いや、子どもからも、たばこばやめて言われたて。ありや、効いたばい」と。あるいは、「早く健康診断に行ってくれって、言われた」と、あるお母さんからね。それも効いたばいって——効いたですって言われてましたので、それは一定の効果があったということもありますし、以前それは上田議員が、御質問されたときも、同じようなことを言われましたので、また、だいぶ効いていると思います。

その中でいわゆる大事なのはね、今度は——やはり中川先生も同じことをおっしゃっていて、大人の世代に直接訴えたいということをおっしゃったので。ただ中川先生、ものすごい忙しい方ですので、来年の2月を目途に、今度は武雄市図書館で特別講演をしていただくということを、思っています。これはもう、大人の方を中心に呼びをして、そこで話をしてもらおうということで、今調整を進めております。ですので、その際にはまた多くの皆さんたちにお越しいただきたいということ、思っております。そして図書館ですので、がんの本であるとか、健康のための本であるとか。それも一緒に全面に出してね、図書館と今度は連動するような企画を立ててまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

#### 4 番山口裕子議員

##### ○4 番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にですね、私自身も住民健診を、まあなんか過信してっていうわけじゃないですが、忙しいとか言って、受けてなかった1人なので、やっぱり何か、こう気づいたときとか、まあそういう、こう視点を変えてですね、こういう健康づくりっていうところを大人がですね、大人たちがやっぱり気づかないと変わらない。それを子どもたちからですね、投げかけてもらって、こういう教室があるっていうのは、大変効果も上がるし、とてもいい講演会だったなというふうに私も思います。

やはり私の友達がですね、3月——2年前の3月11日を機会にですね、ほんとになかなかたばこをやめれなかったけど、命の尊さというところから、自分もお母さんもやめれない、旦那さんもやめれない、またおばあちゃんもたばこ吸っていて、3人が苦しんでいたんですが、家族中が子どもたちが、保育園と小学生がいらっしゃるんですが、家族中が手を取りながら、やっぱり命の大切さを考えて、3人一度にたばこをやめることができたんですよって言われたんですね。だからいろいろな方向性をもって、やはり健康のこととか、命のことを取り入れていってもらってですね、こういう「命」っていうところを見つめていったらいいんじゃないかなというふうに、私はすごく感じました。

だから教育面でも、やっぱり子どもたちはって言うけど、大人も一緒に大人の姿で、子どもたちが、またそれに頑張ろうとするし、小学生とか中学生から喫煙している子どもたちも、ああ、こんなにいけないんだっていうことも、こう、すごく気づくのに早いんじゃないかなというふうに思いました。時代は昔、私たちの小さいころは、なんかかっこいい、たばこはかっこよかったり、なんかそういうふうな時代があったからですね。なんか、いつまででも、そういう形で、ずるずるとたばこに依存しているっていう形もあるんじゃないかな、というふうにも感じました。

だからやっぱり、知るっていうことが1番大事なので、中川恵一さんの、この5年間かけての効果は、かなりあらわれているんじゃないかなっていうふうに思います。あと、大切な人の命を思ったときっていうときに、やっぱりこれは間接喫煙っていうのが、すごくがんのリスクがあって、配偶者とか子どもたちがですね、その肺がんのリスクの20%、30%を負うそうなんですね。そういうことも考えて、こう見つめていったら、そのがん撲滅っていうか、そのたばこの害っていうのは、1番最初に取り除くことができるんじゃないかなというふうに思います。

たばこと生活習慣のですね、そういう60%がのぞかれたら、その医療費とか、そういうのにも子どもたちに、子どもたちが大人になったときに大きな医療費の負担とかですね、そういうのを残さなくて済むんじゃないかなっていうふうに思ってますので、まあそこら辺で市長はさらに、どういう見解があるか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

〔4番「聞いてなかった」〕

○樋渡市長〔登壇〕

いやー、あまりにも話をうかがっていて、集中すると、どういうふうに、こう答弁を返していいのかっていうのが、だんだんわかんなくなってくるんですけど。それだけ、これは、重要な問題なんですよ。

1つ、その行政が思いっきりやろうと言っても、なかなかこれ響かないというのがありますので。これね、今回は、お子さんの力を借りたじゃないですか。だから大人に直接語りかけるっていうのと、あとね、どういうふうにすればいいかなって。実際その——例えば、ちょっと前に質問の出ました、喫煙についても、条例でしばらくっていう話をしてたんですけど、結局これまとまらないんですよ。

そういう私生活の件に介して、行政の公権力が、家庭まで及ぶのがいいのかどうかっていうことも含めて、これはなかなか、まとまらないということもあって、途方に暮れています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり学校の先生もですね、たばこを吸ってる方たくさんいらっしゃるでしょうし、やはり努力して一生懸命、ああ、良くないと思って努力されてても、やめれない人もたくさんいらっしゃるでしょうけど、やっぱり、子どもたちもですね、たばこを吸っている先生から、君たち、健康に悪いし、命を大切にしないといけないとあって、そういうこと言っても、まったく説得力はないと思うんですね。

今、なんか、大人たちは、そういうことだらけで、子どもたちにばかり、こう要求しているような感じをするんですね、私は。だから、やはり大人がこう一生懸命なってるところは、何も言わずとも、子どもたちはきちんとついてくるんじゃないかっていうところで。

私はこれが直接的ではないかもしれませんが、今、市長が、教育問題とかを考えられるときに、市長がこの武雄市の市政に一生懸命向かってらっしゃって、今度は教育に関して命をかけるっていうふうに言って、その姿が子どもたちにですね、今後大人になるまでに、いろんな影響を及ぼすんじゃないかと思うし、市長さんはかつてずっと不登校だったとか、引きこもりだったっていうのが、今の子どもたちをずいぶん励ましてるんじゃないかなっていうふうに思うし。やはり、だめ人間だって、私もだめ主婦だったり、いろんな失敗だらけでも、一生懸命してる大人の姿っていうところに、やはり子どもが、こう育っていくんじゃないかっていうところで、私は、市長の市政に対しての向かい合い方もですね、すごいなっていうふうに感じてます。

だから、子どもたちもそういうので、すごく中川恵一さんの話も、ちょっと中川恵一さんは言葉が荒かったりしてですね、なんか「なんとかせろ」って言うんですが、とっても愛情があられるんですよ。だから、やっぱりこれを続けることによって、子どもたちはもう信頼関係もできてるし、だから、市長さんともそういう大人が、これだけ一生懸命してくれてるんだっていう、信頼関係だと思うので、そこら辺で、一生懸命取り組んでいくっていうところが、教育——まあ、先の教育に繋がっていくんじゃないかなっていうふうに、私自身感じるところであります。

あとですね、この、がんにならないように、たくさんの市民の方が努力されてると思うんですが、ある1人の方が、7月2日の新聞を見て、こんなにいいものがあるみたいだから、武雄市も——モニターいいですか、できれば——（モニター使用）これですね。血中アミノ酸でがんを早期発見っていう、7月2日ですね、新聞に載ってました。これが、南部町っていうところと、新潟県が13年度の予算をするみたいですが、臓器に異常が起きると変化する、血中アミノ酸濃度に着目し、濃度を解析して、胃や肺、前立腺などの7つの部位でがんの可能性を探るっていうことで。とっても可能性が高いと、判定がですね、すごく正確に出るっていう形で、成果を上げてるようです。これをですね、自分の負担ですると、1万8,900円ほどかかるっていうふうに書いてますね。助成してる町では40歳以上の方が受けていますが、1,000円で受診できるっていうことで。まあ年間の助成額は、この南部町が500万負担で、鳥取県は1,000万円というふうに書いてますが、こういう前例が出てるところを見てですね、ぜひとも、武雄市にも取り組んで欲しいなというふうに、一生懸命頼まれる市民の方がいらっしやいましたが、どのようにお思いか、お聞かせください。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

基本的に医療の件に関して言うと、私はすごく慎重になるべきだと思うんですね。いったん、これをやったとなったときに、子宮頸がんワクチンがそうじゃないですか……

〔4番「ああ、そうね」〕

議論に議論を重ねてやったあげくはね、いろんな思いもしなかった不幸な事例が招来してるということで、非常に私自身、後悔してるんです。こういうことが医療の世界ってまま起きるんですよ。今回の場合は、検査なんで、例えば子宮頸がんのワクチンとはちょっと、種類は異にするっていうことは十分承知してますけれど、いったんちょっと、これ——私もこれ、いいなというふうに思っています。しかも、医療関係者からも、「これはぜひいいよ」ということをおっしゃっています。ということを知っていますので、いったんこれ、市政アドバイザーの中川さんと相談させていただこうと思っていました。その上で実績が数字となって出ますので、南部町に確認させていただきたいと思います。それで効果が上がっている

ということであればね、まあ、上がっていると思うんですけども、スピードは最大の付加価値。この導入については踏み切りたいと思っていますし、その判断については今年度いっぱい判断していきたいと、このように思っております。効果が上がるということを私どもが判断をさせていただいて、議会に同意をちょっと求めたいと思っておりますので、その上で進めていきたいと、このように思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、みんなこう、健康に一生懸命ですね。健康であるように努めて、それぞれに取り組んでいるわけで。私も、病院のほうとかも全く意見を聞いてませんので、武雄市内でもですね、これに取り組んでくださる病院が、まあ、すでにあるのかどうかもわかりませんが、できればですね、本当に1,000円で受診ができて、早期発見、中川先生が言われるように、早期発見ですね。そういう形につながっていくと、一番いいんじゃないかなというふうに思います。ぜひとも、いい形で進めていかれることをお願いしたいと思います。

あと、いろんな、武雄市に取り組みが、健康づくりのために取り組んでいらっしゃるんですが、結果としてですね、取り組んでる、こう成果とかそういうものが見られるのかどうか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

市では住民健診後のですね、特定保健指導等、いろんなことをやっているところでございます。それにつきましては、個別結果をずっと追跡調査していきますと、運動とか、食事の改善とか、そういう生活改善につながっている方が多数いらっしゃるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

きのう、聞き取りのときにもちょっと聞いてたんですが、武雄市は、まあ、いろんな取り組みをして、結構いい形でやっているほうなんですけど、がんはさらに増えているというふうに聞いております。

県としてがん予防推進養成講座などをされて、推進委員さんとかも設置されておられるようですが、武雄市の状況としてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長



**○山田くらし部長〔登壇〕**

がんの予防推進につきましても、今までは県主催のいろんな研修会に参加して——参加された方を中心に予防推進ということでお願いしておりましたけれども、今回につきましては、武雄市のほうですね、開催をいたしましてそういう予防推進の拡大に努めているところでございます。

〔4番「何人いらっしゃつとですかね」〕

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

佐賀県の——まあ、佐賀県で取り組んであることなんです、一応、佐賀県で300名ぐらいの推進委員さんがいて、結構武雄市は、90人か70人か——90人ですね。っていうふうに、90人の方が推進委員さんになっておられて、とても熱心な武雄市だっているというふうに聞いております。どうか、本当になかなか自分のこととして受け止められなかったり、色んな形でなかなかこう、健康づくりっていうところ——がん撲滅とかですね、その命の大切さっていうところにつながらなかったりしますが、今後ともですね、こういう取り組みで、本当に最愛の人を亡くしたりとか、子どもたちが悲しい思いになったりとかしないようにですね、それぞれ、一人ひとりが気を付けて取り組んでいかないといけないことじゃないかなというふうに、思わせていただきました。

それでは、次に行きます。

次は、2番目の民生委員児童委員の選任についてですが、これは、ちょうどことしが改選の年であります。私も議員として、もう3回、選定委員に出させていただいておりますが、なかなかですね、年齢制限とか、仕事の内容とかですね、大変厳しいものやら——がありまして、これをなさってくださる方がですね、年々厳しい状態になってきているようですが、その件に関してはいかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

山田くらし部長

**○山田くらし部長〔登壇〕**

今、議員がおっしゃいましたとおり、民生委員児童委員につきましては、今回が一斉改選ということで、各地区をお願いしまして、推薦をいただいているところでございます。

一番問題になっておりました部分が、年齢的な制限ということでございますけれども、民生委員児童委員の場合、原則は65歳ということでございますけれども、前回の改正、22年の際には、72歳未満ということで、今回の改正につきましては、75歳未満までは新規でもいいということに緩和されたところでございます。

また、主任児童委員につきましても、原則は55歳ということでございますけれども、今

回の改正につきましては65歳未満ということで、大幅に緩和されているというふうな状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。今回の選定にかかわったときは、新任が65歳未満、再任のときは75歳未満、70歳以上は事由書を添付して提出するという事だったんですね。で、主任児童委員は、新任が55歳、再任が65歳というふうになっておりました。やっぱり、こう、いろいろ、こう決まり事があってですね、選任の基準っていうのが当該市町村の議会の議員の選挙権を有する者のうち、人格見識が高く、広く社会の実情に通じ、且つ、社会福祉の増進に熱意のある者であって児童福祉法の児童委員としても、適当である者。

具体的には、その地域に居住し、地域の実情をよく知っており、住民が気軽に相談に行けるような人。社会福祉の仕事に理解と熱意があり、実行力がある人。生活が安定しており、家族の理解と協力が得られ、活動の時間が十分に取れる健康な人。福祉、健康保険はもとより、児童問題にも感心を持ち、児童の心理を理解し、児童に接触して指導ができ、児童から親しみを持たれる人。個人の人格を尊重し、差別的な取り扱いをすることなく職務を行うことができ、個人の秘密を固く守ることができる人。

まあ、それ以外にも主任児童委員さんはいくらもいろいろあるんですが、やっぱりこういう形で、とても責務の大きい仕事だと思うんですね。あと、これを受けたとき、地域によっていろんな問題を抱えていることが多い人とか、問題がないところの民生委員さんとかでまたいろいろ変わってくると思うんですが、まあ、先ほどちょっと言われてましたが、報酬とは言わないらしくて活動費って言うそうなんです、これが1カ月に9,000円ということで、やっぱりこう、働き盛りっていうのが、もう今、70歳ぐらいまで働いていらっしゃる中でですね、仕事を辞めてこういう形で御奉仕するというのが、なかなか難しいんじゃないかっていうふうに言われているんですが、その辺はいかがお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

民生委員児童委員につきましては、今言われたように、報酬としてはありませんけれども、いろんな形での活動費ということで、先ほど議員が言われたような金額を支給しているところでございます。

民生委員児童委員の方につきましては、地域福祉の重要な役割を担っているというふうな思っております、今回の一斉の改選にあたりまして、地域から強い改定要望もあつているところでございます。モニターをお願いします。（モニター使用）

〔4番「ああ、そうですか」〕

武雄市は9,000円ということで議員、おっしゃっていましたがけれども、県内の状況はですね、活動費については今御覧のとおり金額というふうになっているところでございます。

佐賀市がですね、委員さんが9,700円、唐津市が1万700円。鳥栖市が1万円、多久市が6,500円、伊万里市が6,250円。鹿島市が9,000円、小城市が9,000円、嬉野市8,288円。神崎市が4,850円という活動費になっているところでございます。県内でも高いほうではございませんが、中位ぐらいと、いうことでございますので、金額については、先ほど言われたような状況もありますけれども、他市の状況とか見ながらですね、慎重に対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、よく誤解されてるんですけども、これ全額、市が出しているわけじゃないんですよ。

これ、どうなっているかという、厚生労働省が4,800円。1人当たりですよ。これは、各自治体に民生委員1人当たりとして出してるってということなんですね。4,800円よね。

〔くらし部長「4,850円です」〕

もとい。4,850円でした。すいません。4,850円、これ出していると。あとの足りない部分は、武雄市で、じゃなんで、9,000円になっているかっていうと、残りの9,000円ひく4,850円の、4,150円ですか、は、市の単費で支給をしてるってということになるんですね。

ですので、これね、もともとの問題は、国の単価が低すぎる。ですので、併せて厚生労働省に対して、今、自民政権でだいぶ私と近くなりましたので、これね、厚生労働大臣に、うちの自民党の力を持っておられる、武雄の支部長さんを中心――を、経由してね、お話をさせていただきたいというふうに思っていますし。もちろん私どもも、ちょっと市長会では立場が悪くなったんですけども、これについても、（発言する者あり）いろいろあるんです、大人の世界は。なんで、そういった観点からもね、ちょっといろんなお力添えをいただくべくね、私たちのほうから申し上げたいと思います。そして、私自身もこれ、低いと思ってます、民生委員さんが頑張っておられる中で、これは十分低いっていうのは本当に申し訳なく思ってるんですね。

ですので、ただこれだけを上げるってということになると、ほか例えば、駐在員の皆さんとか、いろんな市がお願いしている皆さんの方もいらっしゃいますので、これはちょっと、時間をこう――ください。それで、いったんちょっと整理をした上で、上げる方向でちょっとぜひ、ほかの方々も含めてね、検討させていただきたいというふうに思っています。ちょっとこれ、あまりにも――他市の比較については、まあ、こういう状況ですということは申し

上げたんですけれども、それでも武雄市の置かれている状況が決して高くない、高いっていうところか、低いっていうことは十分承知していますので、全体の委員報酬、まあ、今回は活動費ですけれども、含めて1回見直しをさせていただければありがたい。このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

その地区に、いろいろな問題がなくてもですね、研修とか、定例会とか、まあ、行事ですね。市で行われる全ての来賓の列席とかですね、そういうものに、民生委員さん方は御出席なんですね。やはり個人情報とか保護法で、情報が個人的にとれないから、いろんな心配事があってもスムーズに動けなくて、地域の人が、あの民生委員はなんもしよらっさん、とかですね、なんかそういう声もあったりして、こう受け手がですね、やはり、こう——ですね、「もう、この仕事は」というふうな形になっているんじゃないかなっていうふうに思います。改善できるところは改善してですね、大切な仕事だと思いますので、新任が65歳未満というところも年齢を変えていかれると、選任するときですね、やりやすいんじゃないかと思っておりますので、今後ですね、そういう改定をお願いしたいと思っておりますのでよろしく願います。

次に行きます。モニターをお願いします。（モニター使用）

これからの道路行政についてですが、これは、道路行政もうちの歩道のない通学路とかも、事情がどんどん——大型が通るようになって事情が変わってるんですが、ここは国道で、ここは黒髪の里がありまして、スマイルがありまして、ここはほとんど利用されてない出口だったと思うんですが、今、頻繁にここの入り口を利用して、事故が多発しているっていうことで、とにかくこう、なんとか言ってくれということだったんですね。ただの事故だったら、区長さんとかですね、いろんな形でまた相談なさったらどうですか、ということをお願いしてたんですが、いま1番、関係しているのが、——ここ、手前のほうから写したんですが、ここの入り口がこっちとずれているのも1つの要因ですが、有田から来る車が結構飛ばして下ってくるの、ですね。ここから入る車、こっから出てくる車ですね。ここが、スマイルっていうスーパーがとても繁盛というか、お客さんが多くなって、ここの正規の出入口よりもこっちから来る人が多くなったもんだから、それが事故の1つの原因じゃないですかっというふうに言ってたんですが、今、きれいにこう植栽が刈り取られてる、ちょうどここのところ刈り取られてるんですが、ここが年に、大体国道沿いで1回しか刈り取られなくて、この植栽が見通しを悪くして、それが大きな事故につながる1つの原因にもなっているというので、この植栽っていうところの問題をあげてくれて言われたんですね。これは、本当にこれ、刈り取ったばかりです。その前には、1mくらいにあがるわけですね。こちらも

ですね。

だから、今後そういう植栽はどうされるんですか、というか維持管理費で年に1回くらいしか、来てもらってないということですね。昔はこの通りは、陶器市があるときには必ず1回は刈り取ってもらって、それでお盆ぐらいという形だったけどもう、どんどんですね、そういうお金がなくなって、こういう状態になってるっていうふうに聞いております。

それと、状況が変わって、今度はそよかぜの杜っていうところが、最近というか数年前にできて農業者しか出入りしてなかったここの出入り口が頻繁に保育園の送り迎えとか、そよかぜの杜の方とかが出入りするようになって、この出口が1番危ない。ここがみんな1列に並ぶときれいに隠れてしまうわけですね。ここからの車が。ミラーもありますが、一応確認をしないと出きれないんですね。真横から撮るとこんな間隔でなんていうんですかね、この木は、間隔を置いてるわけです。それともう朽ちてなくなったりもしています、結構古くなってですね。そういうことから、行き来が変わってきているというか、ですね。そういうところでこの植栽の維持管理が今できていないので、今後そういう植栽帯のあり方というか、その草払いですか、そういう面で、対応をですね、どうされていくのかな、という形でお尋ねします。

**○議長（杉原豊喜君）**

森まちづくり部長

**○森まちづくり部長〔登壇〕**

先のスマイルの近くの分……

〔4番「はい」〕

につきましては、国道になりますので国道の分につきましては、国土交通省の佐賀国道一—武雄維持出張所のほうに今確認をいたしました。原則年1回の手入れをしていると。しかし、先ほど指摘があったように支障があればですね、その都度対応をしている、というふうなことでありまして、今後も同様の維持管理をしていきたいというふうなことでありました。

それから県道の維持管理につきましては、武雄土木事務所のほうに確認をしましたけれども草刈りを年2回、植栽の剪定を1回実施しているというふうなことでした。支障になる街路樹等につきましては、地域の皆さん方と合意を得ながらですね、どうしても伐採したほうがいいというところであれば、伐採をしてもいいんじゃないかというふうなことをいただいております。それから市道につきましても年1回の草刈りをし、植栽の剪定を1回と。これにつきましても、交通安全上、支障がある分につきましては、その都度伐採をやっているというふうなことです。

それからまた市道におきましては、道路パトロールを実施しておりまして、発見した場合、随時直営で対応を、伐採をしているというふうなことで、今後も同様に実施していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろ、状況が変わってきてですね、ここを利用する人が多くなったというのは、もう本当に、ここの出入り口とか、この使用の仕方っていうので、また区の方とかですね、この制限をかけた問題、そういう整理をしないといけないんじゃないかと思うんですが。

この植栽についてはですね、危険であればほしいその範囲内の——ここ根本からですね、5mとかですね、そういうところを見ます。だから、そういう対応が必要じゃないかなというふうに思います。

あとですね、ここも、こういう形で、ここ県道になりますよね。ここも下の田んぼの方が、あぜまででいいんだけど、ここの上まで刈らないと、これが1mに伸びたりして、年に1回とか2回じゃもう本当危ない状態になるわけですね。で、景観も悪いし。だから、農家の人というのは、この土手をみんな、これを草払いしていたわけですね。で、こういうふうにコンクリートで道路脇の側帯というか、そういうところは、コンクリートとか、こういう形で固めてもらう、今後ですね。草払いとか、そういう維持管理ができないのは、こういう方向になったほうが良くないんじゃないかって。そして少ない後継者、農家の後継者の人たちはこれをしてもらうと本当に助かるんですね、本当に助かってらっしゃって。

ここちょうど、撮りに行ったらですね、このような状態、わかりますか、ここ。もうかなり高齢の方がたぶんここに田んぼつくって家があるからかもしれませんが。これを刈らなかったから、これ物すごい高さになりますよね。国道沿いとかは、きっちり1m。この道から1mしか、こうやらないですね。これもコンクリートみたいな軽いやつで固めてあります。

だから、今後ですね、後継者、高齢化していて後継者もないっていう状況で、こんな所がどんどん増えてくるわけですね。このおじいさん、本当かなり高齢の方だったですが、これをですね、刈り取っておられるわけです。

だから今後の道路行政考えたときに、これは梅野有田線で、いつも私が通学路がない、この通学路をずっと、ないんですが、そこがまず最初に、こういうふうに側溝に、少し予算がありましたので側溝に蓋をしましょう、ということで、していただいたんですね。できれば、この幅のないところ、1番危険なところに、こういう形というか、そういう対応が良かったなと思っていたら、ここが終わって予算が残りましたので、こんなふうにかぶせましたっていうことだったんですね。だから、このほうがうんと助かるんですね。これだけ、これだけ歩く幅ができました。で、区長さんも、本当にこれだけでもずいぶん良かったっていうふうにですね、言っていたいたんですね。でも、まあ、してもらったんだったら、こういうふうにですね、この整備環境ができて、きれいにですね、なったから良かったんじゃないかと言われるけど、これだけの幅、白線なんかあるところだったから、ちょっとねって。こん

なにあるところよりも優先的には、っていう声がですね、聞かれました。

だから、今後の道路行政で、維持管理費が取れない場合は、もう草払いが年2回とか、ここ草払いをされている人も危険だし、この暑いとき、40度とかなるときに、草払いとか、あちこち、県道沿い、国道沿いされていますよね。こういう形になっていくのは、もう、私は環境推進派としては、あまり好きじゃなかったんですが（笑い声）いや、コンクリートで固めるっていうのがですね。でもこういう実情が出てきたならば、ですね。やっぱりこれを、本当に土手を、全部農業者の人がされてたわけですよ。だから、そういうことを考えて今後のこれからの道路行政維持管理というところを考えていってほしいなって。これは県道とか国道だからですね、そういうところを伝えてもらわないと変わっていかないと思うんですね。皆さんもう本当にこれを痛感されていると思うんです。周辺部はどんどん草やぶだらけになっていっているんですよ。

そういうところをちょっともう1回、答弁いただきたいんですが。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

僕は基本的に環境派なんですよ。環境派なんです。ただね、これコンクリートにすると、環境派、いわゆる緑系の人たちが、なんでコンクリートにすつとですかって、必ずこれ批判来ますもんね。そいけん、もしそうやったら、その緑派の人たちにはね、そいぎ草ば刈ってくださいって言おうと思ってね、うん。要するに言いつばなしはだめですよって。

それよりも、我々は、生活をする観点から言うと、やはりここは——僕は基本的にコンクリートにすべきだっていうふうに思ってるんですね。維持管理も大変です。それで、さっき松尾技監に聞いたら、そんなにお金はかからないと。

それともう1つ、ちょっと、戻してもらっていいですか、ちょっと。もう少し。これこれ。あつ、もつと。

〔4番「これも、かぶせてるんですよね」〕

答弁しますから、僕。（モニター使用）それでね、これ、これこれ、これですよ。このね、これいらんです、もう。うん。草ぼうぼうとなってですよ。

〔4番「うん」〕

特にことしの夏暑かったけんですよ、もう結構茶色っぽくなってましたもんね。そいけん、もうこれはね国交省に言って、外してくださいっていうことを言おうと思って。

昔は、これで良かったんですよ。温暖化もさほどなくて、維持管理にこう手間をかけられる、その予算もあった。しかし、その予算がない。しかも維持管理にするぎ、やっぱり——ビーバイシーからするとですね、とてもこれ、しないほうが景観的にもいいかもしれない、という観点から、ちょっとね、これ外してもらおうように松尾技監を通じて、強面の、はい。

ちょっと国交省をお願いをしようと思っています。そして、最後予算が余って、そういうふうにコンクリートにしたっていうのは、うちの石橋幸治前部長さんが、今なんていう役職でしたっけ。（「管理監」と呼ぶ者あり）管理監ですね。やっぱり名前がイシバシコウジやけんが——良かったというふうに思っております。

いずれにしても、職員の知恵を結集して、予算のね、そういう効果的な配分についても、我々知恵を絞ってやってまいりたいと思っておりますし、実際の、もし——環境を大切にする、そのお気持ちはわかりますけれども、そうであるとするならば、そこはメリハリをつけるべきだと思っております。緑化すべきところは緑化すべきとこだし、生活の安全とか安心とか、いろんなことを考えるところは、そういうふうにコンクリートにするっていうのは、別に環境破壊でもなんでもないと思っておりますので、それは、メリハリをつけて政策を行うべきだというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私も、だいたい、がちがちの環境派だったので、そういうことをされたら、意外と指摘してるほうだったんですが、本当に時代はすごく変わってきたということと、農業後継者もいなくなったときに、そういう管理までは、もう本当に、とても苦しめることだっていうことと、あとコンクリートじゃなくて。（モニター使用）ここはですね、グリーンの——何て言うんですか、これあんまりもてないんですか、5年ぐらいか、何年ぐらいかわかりませんが。これグリーン系の色のついたやつでカバーされてるほうがいいかなっていうふうに思いました。

あとですね、ぜひとも言いたいのは、このところですね、やはり、この1mしかしていられないのは、どうもできないですかね。やっぱり、ここから下が土手になっているところは、本当に誰も、もう管理する人がいなくなるとぼうぼうになるっていう形だから、そういうところも含めてですね、やっていただけたらと思います。

あと、もうこの線は、有田の炎博があったときに、この並木——ずっと植樹帯に、ハギとかいろんな花がですね、そのときは、管理が十分されて美しかったと思うんですね。でも今は全く手が回らない状態なので、先ほど市長さんおっしゃったようにですね、次そういう形でですね、取り組んだほうがいいんじゃないかっていうふうに私は思います。

はい、すいません。次の質問にいきます。議長、いいですか。

○議長（杉原豊喜君）

はい。

○4番（山口裕子君）〔続〕

はい。最後になりますが、地球温暖化対策と循環型社会の推進について、お尋ねします。



今、そういう形で話してたわけですが、いつだったですかね。こども議会がありまして、山内中学校の子どもたちが、地球温暖化における武雄市の対応について、っていうことで。ああそうだ、というふうに私も思ったんですね。これにお答えされるときに、市長が、地球温暖化とか、あんま大きな問題でちょっと、とか言って。そういう答弁が先に入ったので、ああやっぱり環境のことは、常々みんなが意識しないといけないから、こういう問題には毎回、触れたほうがいいなと思って今回あげさせていただきました。

市長が言うように、公共施設とかですね、緑化しなければいけないところとか、そういうところに、きちんと——分けて周辺部がですね、そんなコンクリートみたいにぼっかりなるわけでもないし、そういう維持ができなかったら、それはやむを得ないということで、こういう公共施設とかですね、そういう周りに、緑地帯というか、きれいに緑化帯をですね、きちんとするまちづくりをしていただきたいな、ということ、子どもたちのほうからも出ていましたが、そういうまちづくりに取り組んでいただきたい、ということ、を思います。

また図書館とかですね、これ図書館ですね。ただ図書館がリニューアルオープンしてすごいついていうよりも、この景観っていうか、この自然。こういう魅力があって、武雄市を訪れてらっしゃるんじゃないかっていうふうに、私は思います。私が大好きな文化会館の庭園です。こういうところに維持管理費がないからってこうなってしまうと、本当に哀れな形になっていくので、こちら辺の整備とか利用の仕方とかですね。そういうのは、きちんと整えていってほしいなっていうふうに思います。

あと、子どもたちからクールシェアスポットっていう話で。すごく今年暑かったので、一人で、家でクーラーにかかっているより、そういうスポットに行き、過ごすという形で、市長さんどうですかっていう話が出ましたが、図書館は、今年の夏はクールシェアスポットに私はなったのかなというぐらいに、みんながここに集って、夏の暑い盛りですね、過ごしていたという1つでもなかったかなと思うんですが。こういうふうに、地球温暖化対策として、この循環型社会を、基本としたまちづくりをですね、さらに市長さんには進めていっていただきたいな、というふうに思いますが、子どもたちの提案とかですね、そういうの含めて、お聞かせしていただきたいと、思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

この前のこども議会は、本当に我々が「あっ」て思うほど、鋭いやっぱり指摘がありましてね、僕らが思っている以上に、子どもたちは武雄市の将来、未来を考えてくれてるんだなと思って。本当に深く感謝をしています。

その中で、その緑化という話が出てきたときに、我々は、ほかの市と比べるとはどうかとは思いますが、かなり進んでいるんですね。これは、松尾技監がクリーンだし、グリ

ーンだから進めようということもあって、かなり進めてはいます。

そういった中で、これは、官あるいは公だけでできるような話じゃないんですね。ですので、例えば、松原通りに出店をされる事業者の方に、我々申し上げてるんですけど、緑化を、ぜひお願いします、と。ですので、極端なことを言えば、松原通りに関して言うとね、やたらめったら、駐車場をつくるよりは、むしろ——森とは言いませんけど、そういう中でお店があるってしたほうが、恐らく付加価値が増すと思うんですよ。コンクリートにどこにでもあるようなね、ロードサイドの物を置いたって、消費者の皆さんたちは目が肥えています。ですので、そういう居心地のいい空間ですよ。なぜ図書館が、あれだけ人を集めているかという、居心地の良い空間なんですよ。ですので、江原議員さんとも僕は握手ができたと思うんですよ。

ですので、そういう中で、私とすれば、今度は街の中でね、歩いてて、ああ居心地がいいって、歩きやすいついていうためには、緑しかない。しかもさっきも言ったように、これが、公がそこに木を挿せっていうような権限もありませんので、それは実際出店してくださる方、あるいは、おうちでもいいと思うんですよ。軒先のところに花を並べるとかね。というのもあるので、うまく民間の皆さんたちの、市民の皆さんたちの力をね、引き出すように、我々は政策を、展開をしていかなければいけないということを思ってますし、これも、次の公約に、ぜひこれは掲げていきたいということを思っていますので、これもちょっと時間を貸していただきたいと思いますし、これも信頼のおける議員さんとよく相談をして公約にあてていきたいと、このように思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

#### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

（モニター使用）ここが、庁舎の前ですね。これも本当にたくさんの方がですね、庁舎、行政視察とかで訪れてらっしゃいますが、ここも、本当にいい景観なんですね。だから、新しい庁舎も今から計画されると思いますが、やはりこんな緑をですね、たくさん取り入れた庁舎という形で、取り入れていってほしいなと思います。

今回、グリーンカーテンがなくなっただのは、ちょっと残念だったんですが、やはり、まちづくり部がですね、移転したりなんかで、人手が足りなくて、という形だったので、それで人手が足りないときは、さっき言われたようにですね、いろいろ民間と共にとかですね、そういう形で、グリーン化、緑地化をですね、していったらどうかなっていうふうに思います。

今後とも、もったいない精神とか、おもてなしの精神とか、やはり、あるものを生かしたまちづくりっていうのは、とっても大切だと思いますので、常に、循環型社会を目指して、質素にシンプルに心を込めてまちづくりをしていっていただきたいなっていうふうに思いま

す。それは、やはり子どもたちの未来ですね。それが1番、未来を考えるっていうことが1番大きな課題だと思いますので、できるだけ循環型社会を基本にして、まちづくりをしていただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。